

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

1. 開催概要

開催日時: 令和8年2月4日(水) 午前9時~11時

出席者 学校運営協議会委員 (出席5名欠席1名 過半数の出席)

江原美紀 委員長(後援会長)
大高千尋 委員(同窓会関係者)
小池理恵 委員(学識経験者)
杉山 誠 委員(地域関係者)
小澤紀子 委員(PTA 会長)

静岡城北高等学校 (出席4名欠席1名)

校長 渡辺賢一
副校長 塚本裕之
教頭 山田光俊
事務長 大坪淳子

主な議題:

会長・校長あいさつ
学校概況報告
令和7年度学校自己評価報告
令和7年度学校関係者評価
令和8年度に向けた方針

2. 校長報告

(1) 国際交流・グローバル教育の現状

- ・受入状況: 6月に米国ロサンゼルスの高校生を受入れ、ホームステイを実施した。グローバル科だけでなく普通科の家庭も受入れに協力した。
- ・多様な交流: 長期留学生(台湾・インドネシア・ラトビア等)や短期聴講生(フランス・カナダ・ドイツ等)を受入れ、日常的な異文化交流環境がある。
- ・派遣状況: マレーシア等への短期派遣(約10名)や、1年間の長期留学生(2名)など、生徒が海外へ出る動きも活発化している。

(2) 令和8年度に向けた本年度の目標設定と学校評価の振り返り

- ・目標設定の改善: 前年度の反省を踏まえ、生徒の実態に即した目標設定に見直しを行った。例として、オープンキャンパスへの参加目標を学年ごとに細分化するなど工夫した。
- ・ボランティア活動: 目標「全生徒の部活動加入」から方針転換し、部活動以外にも視野を広げる活動を推奨している。ボランティア活動参加率の目標は50%だったが、現状は30%程度に留まっているため、今後も継続して推奨していく。
- ・防災活動: 地域の方々の協力を得て、仮設トイレ設置訓練などを実施した。能登半島地震の影響もあり、生徒・地域共に意識が高まっている。

3. 意見交換の概要 テーマ:「これからの教育活動と生徒に求められる資質・能力」

(1) 教育現場の課題と今後の展望

- ・教員の多忙化と ICT:ICT 導入により業務効率化が進む一方で、新たな業務が増えている現状がある。教員に精神的な余裕を持たせる配慮が必要との意見が出された。
- ・文系人材と IT スキル:企業では IT 技術者が不足しており、文系出身者を採用してエンジニアに育てるケースが増えている。文系の柔軟性と IT スキルを併せ持つ人材 (AI 活用等) の育成が、生徒の進路や強みになるとの提言があった。
- ・生徒数減少に伴う県立高校の削減や統廃合の可能性について、近隣校との連携や今後のあり方について言及があった。

(2) ボランティア活動の定義と促進

- ・「ボランティア」の再定義:大規模なイベントだけでなく、図書室の本の修理や清掃など、校内での小さな活動もボランティアとして認め、推奨することで、生徒が参加しやすくなるとの提案があった。

(3) 英語資格試験の多様化 (TOEIC 等の活用)

- ・実用的な試験への移行:従来の英検に加え、企業や大学で評価される「TOEIC」の団体受験導入の提案があった。費用対効果が高く、オンライン受験で即時に結果が出る等のメリットがあり、生徒の進路実現に資するとの意見が出された。

(4) 総括

- ・今年度の学校評価および次年度の方針について共有し、承認された。委員からは、形式的な数値目標にとらわれず、生徒が視野を広げられるような柔軟な教育活動 (小さなボランティアの積み重ねや、実社会で通用するスキルの習得) を求める声が挙がった。